

情報モラル教育 白河市立表郷中学校

キーワード：情報モラル、自分事、ネットトラブル、教科、家庭との連携、実態把握、アンケート調査、長時間利用、使いすぎ、リスク教育、カード教材

I 研究について

1 情報モラル教育に関する学校の課題

第7次福島県総合教育計画において、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革し、子どもたちに必要な資質・能力を確実に育成することがうたわれている。

1人1台端末が整備され、ICTの利活用が学習や生活を豊かにする反面、子どもたちの情報活用能力（情報モラル）の育成が急務である。

昨年度本事業における研究の中で、本校では情報モラルに関する調査を実施し、生徒、保護者、家庭の実態変容を把握した上で、家庭と連携した実践をすることができた。生徒へのアンケートでは、スマートフォンの所持率が増加しており、特に平日夜や休日の使用時間の増加傾向が見られた。保護者へのアンケートでは、スマホやゲームの使用時間を法律で規制すべきという、強い規制を求める声が増加傾向にある中で、SNS等の利用について子どもと週1回以上話す割合が減少しており、家庭としての困り感が浮き彫りになった。

今年度もアンケート調査を実施し、変容を確実にとらえながら、家庭や地域と連携した取組を実践していきたい。更に、3年次は、地域との連携を通して、「表郷情報モラル」作成などの実践を行いたい。

2 令和5年度の重点事項と計画

今年度は、家庭・地域との連携の強化と各教科での教材開発、「表郷情報モラル」の作成と完成を目指し、以下を重点事項として年間の計画を立てた。

(1) 重点事項

- ① 1人1台端末配備後の実態の確実な把握
- ② 家庭や地域との連携した取組の実践
- ③ 日常生活指導や各教科における情報モラル教育の実践

(2) 今年度の計画

時期	実施内容
6月 1日	研究推進委員会 「今年度の取組とアンケート調査について」
6月 5日	アンケート実施（対象：生徒・保護者・教員）
6月15日	研究推進委員会 「第1回校内授業研究会に向けて」
6月22日	第1回校内研修会 「実態と今年度の取組について」
7月11日	第1回校内授業研究会 第3学年学活【指導助言者 塩田真吾 様】
8月21日	第2回校内研修会 「情報モラル教育の教材開発について」
11月16日	研究推進委員会 「第2回校内授業研究会に向けて」
12月15日	第2回校内授業研究会 第1学年社会【指導助言者 塩田真吾 様】
1月18日	研究推進委員会 「今年度の実践のまとめに向けて」
2月 5日	第3回校内研修会 「今年度の実践のまとめ」

(3) 研究の概要

① 一歩踏み込んだ実態把握

本校では年1回のスマートフォンの使用に関するアンケートを行い、生徒のスマートフォンの使用状況やSNSの利用状況を確認してきた。また、年4回の生徒へのいじめに関するアンケートを行うことで、ネットトラブルやSNSに関するトラブルを把握し、随時対処してきた。一昨年度から、デジタルアーツで行っているアンケートをもとに、生徒・保護者・教員に対して継続したアンケート調査を行い、それにより、スマートフォンやSNSの使用状況などの一歩踏み込んだ内容を把握し、それらを比較・分析を行うことで情報モラル教育の実践に生かすこととした。

② 家庭や地域と連携した取組の実践

昨年度のアンケートの結果より、スマホやゲームの利用時間について困り感を強くもっていることが分かっている。そのため、今年度もアンケートを行い、学校としての傾向をしっかりと把握していく。また、その結果をもとに、保護者の話を聞く機会を設定し、その困り感を具体的に共有することで、その困り感に基づいた実践を行うこととした。さらに、学校での情報モラル指導の実践を保護者へ発信することで、保護者や地域を巻き込んだ情報モラルの育成を目指した。

II 研究の実際について

1 アンケートから

(1) アンケートの概要

生徒と保護者に対するアンケートは、一昨年度に実施したデジタルアーツで行っているアンケート内容に準拠した内容を継続して実施した。それにより、これまでの結果と比較することができ、本校の実態や地域の特徴を捉えやすくなったと考えた。

(2) 生徒アンケートから

①自分専用のスマートフォンの所持率	81.6% (-4.2)
②自分専用のスマートフォンは持っていないが家族のものを使用できる	11.8% (新)
③スマートフォンの使用率 (①+②)	93.4% (新)
④裏アカウントの所持	19.8% (-12.9)
⑤ネット上だけの友達がいる	24.3% (+3.6)

※ () は昨年度のアンケート結果との比較

◇ ネット友達にどこまでの情報を教えられるか？

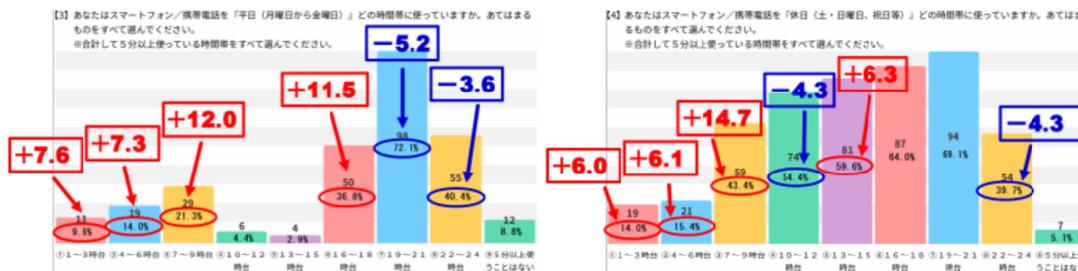
【14】 インターネット上でコミュニケーションをとる友達にどこまで情報を教えられますか。
(※ネット友達がない人も、ネット友達がいるとして考える)
あてはまるものすべてを選んでください。この質問には全員が答えてください。



ほとんど教えたくないが56.6%であり、昨年度から-4.7ポイントとなっている。また、今の悩み事なら教えられる生徒は37.5%で、昨年度から+4.8ポイントとなって

いる。また、ネット上だけの友達がいる生徒が24.3%で昨年度から+3.6ポイントとなっていることを踏まえると、ネット上でのつながりが広がっていることが考えられる。さらに、悩み事や将来の夢、恋愛状況など親や友達に話しにくいことをネットで相談することが、生徒たちにとって普通のことになってきていることも考えられる。

◇ 平日、休日はどの時間帯にスマートフォンを使用しているか？



平日、休日共にほとんどの時間帯で増加傾向が見られる。この結果より、スマートフォン等の長時間利用の傾向があることがわかる。また、平日においては、1時～9時と16時～18時に増加傾向、19時～24時に減少傾向が見られ、休日においては、1時～9時と13時～15時に増加傾向、10時から12時に減少傾向がみられる。これらの結果から、保護者の帰宅前や就寝後など、保護者の目の行き届かない時間帯での使用が増えているのではないかと考えられる。

(3) 保護者アンケートから

①法律でなく各家庭で決めるべき	50.0% (+4.2)
②SNS等の利用について子どもと週1回以上話す	23.1% (+2.5)
③SNS等の利用について子どもと月1回以上話す	44.2% (+2.5)
	②+③ 67.3%
④子どもが使用する端末へフィルタリングを設定している	71.8% (-10.2)

◇ スマホやゲームの利用時間の制限について

① 法律で罰則を設けて規制すべき	→ 11.5% (-1.4)
② 法律で規制すべき (罰則なし)	→ 10.6% (-0.9)
③ 法律でなく各家庭で決めるべき	→ 50.0% (+4.2)
④ 法律でなく端末で制限をかけるべき	→ 25.0% (-3.2)
⑤ 制限する必要はなく好きなだけ使えばよい	→ 2.9% (+1.4)

◇ SNSや写真・動画アプリの利用について我が子と話す頻度

① 週1回以上話している	→ 23.1% (+2.5)
② 月1回程度話している	→ 44.2% (+2.2)
③ 年1回程度話している	→ 11.5% (-2.2)
④ 年1回未満話すことがある	→ 1.9% (-4.9)
⑤ ほとんど話すことはない	→ 19.2% (+2.4)

利用時間について、「何かしらの制限をするべき」との考えを持つ家庭が97.1%おり、そのうち、「各家庭で決めるべき」と考えている家庭が50.0%だった。また、「SNS等の利用について子どもと週1回～月1回以上話す」家庭が67.3%だった。この結果より、多くの家庭でスマートフォンなどの利用について問題意識を持っていることが分かる。しかし、「子どもが使用する端末へフィルタリングを設定している」家庭が、昨年度から-10.2ポイントだった。これらの結果より、家庭によって問題意識に大きな差があり、学校と保護者が連携した取組が急務であると考えられる。

2 校内授業研究会から

(1) 第1回校内授業研究会(学級活動(2)) 令和5年7月11日)

第3学年 学級活動(2) 「ネットトラブル」

① 生徒の実態から

80%以上の生徒がスマートフォンやタブレットを所持している。また、各種SNSアカウントをもつ生徒が学級の80%以上で、1日に平均2時間使用している。また、昨年は一部の生徒においてSNS上での書き込みや画像投稿等でトラブルが発生した。その原因として挙げられるのが、「思い込み」や「リスクを想像する力」の乏しさである。そのため、情報を発信する際にどのようなリスクがあるのかを想像し、情報の広がりや周囲に与える影響を意識しながら使用できるようにすることが課題である。

② 授業構想

身近にある「思い込み」を提示することで、自分自身のこととして考えさせたい。自分と他人では考え方や感じ方が異なることに気付かせ、「思い込み」によってトラブルにつながる可能性があることに気付かせたい。授業後は保護者と「思い込み」によるトラブルについて考え、保護者とSNSの使い方を見直す機会をつくりたい。

③ 授業の実際

〈本時のねらい〉

トラブルに潜む「思い込み」から、ネットコミュニケーションのリスクを想像し、インターネット上のトラブルを回避するために必要なことについて考える活動を通して、SNSの使用法について意思決定することができる。

学習活動・内容

1 身近な事例から、「思い込み」を体験する。

2 課題把握をする。

「思い込み」によるトラブルをなくすためには？

3 「思い込み」を「ももたろう」の例から考える。

4 ネットコミュニケーションの「リスクの想像」を行う。

(1) ももたろうの鬼退治では

(2) 合唱コンクールでは

5 今までの自分のSNSの使い方を振り返り、意思決定する。



④ 事後研究協議会から

○ 合唱コンクールについてのSNS投稿を例にリスク想像のトレーニングを行うことで、自分事としてこの問題を捉え、取り組むことができていた。

● 生徒間の話合いや生徒と教師のやり取りの中から問題に気付かせ、課題解決に向かう流れをつくることで、もっと自分事として問題意識をもって取り組めたのではないかと思われる。

⑤ 指導助言

【情報モラル教育の視点から】静岡大学教育学部学校教育講座准教授 塩田真吾 先生
「自分事」として問題に取り組ませるには、問題となる行動をとってしまうシチュエーションを考えてみるのが効果的である。トラブルを起こしてしまう状況を想像するトレーニングを行い、経験や感情を共有すると「自分事」になりやすい。

(2) 第2回校内授業研究会(社会科 令和5年12月15日)

第1学年 社会科 地理的分野「世界の諸地域」
「なぜアフリカ州では貧困に苦しむ人が多いのか」についての調べ学習における資料の精選について

① 生徒の実態から

タブレットの使用は小学生のときから使い慣れているが、インターネットで資料を集める学習経験は十分ではない。インターネット上にある情報は、すべてが正しい情報であると思っており、その中には古い情報や間違った情報など、様々な情報があることを意識しないで情報に接している。

② 授業構想

インターネットを用いて調べ学習を行う際に、情報の精選・吟味・出典・引用といった情報を正しく扱う姿勢や技能を身に付けさせたい。そのために、情報を扱う活動の中で必要感を持たせながら、情報を扱うルールを生徒自身で考えさせていきたい。

③ 授業の実際

〈本時のねらい〉

アフリカ州で貧困に苦しむ人が多い理由を多面的・多角的に考察し、自分の言葉で表現することができる。

学習活動・内容
1 前時まで調べた資料を見る。
2 課題把握
情報をどのように活用して、アフリカ州で貧困に苦しむ人が多い理由を発表資料にまとめるとよいか。
3 資料の吟味、精選を行う視点を確認する。
4 班で、どのような資料を使うかを確認しながら、発表資料の精選を行う。
5 本時をふり返り、次時につなげる。



④ 事後研究協議会から

○ 資料の吟味、精選を行う視点を「調べ学習の掟」として意識させ、学習を進めていく中で、随時生徒と内容を付け足していくようにした。他教科等での調べ学習にも活用できる内容になっていた。

● 出典についてふれたが、1次情報や2次情報等、引用・参照するデータの信頼性についても考えていかなければならない。

⑤ 指導助言

【情報モラル教育の視点から】静岡大学教育学部学校教育講座准教授 塩田真吾 先生
情報モラル教育の日常化を目指して、まずは「どのような力を身に付けさせたいのか」を検討し、学活・総合・道徳を中心に実施したほうがよい内容、教科を中心に実施したほうがよい内容、日常生活を中心に実施したほうがよい内容に分けながら実施していくことが必要である。

3 家庭や地域との連携から

(1) 表郷地区メディアコントロール推進協議会

表郷地区において保育園、幼稚園、小学校、中学校の保護者代表が集まり、スマートフォンの使用等について話し合う「表郷地区メディアコントロール推進協議会」が行われた。そこで、中学校での実践事例等を紹介したり、それぞれの保護者代表から意見をいただいたりして次年度以降の方向性を検討した。今年度は「表郷情報モラル」の作成までは至らず、次年度以降も検討を重ねることになった。

(2) 小中連携について

授業研究会については小学校と連携し、お互いの研究実践を研修する機会を設けた。子ども一人一人を、小学校から中学校までの9年間のスパンで考えて情報モラルを育成していくことになった。

(3) 学校だより

3年間、教員が取り組んだ実践について、その都度学校だよりで紹介し、保護者に啓発を図った。

Ⅲ 成果と課題について

1 成果

- 昨年度とのアンケート結果の比較から、今年度の傾向や地区としての傾向を把握することができた。ネットの利用状況がかなり高く、保護者も使い方や使いすぎについて問題意識をもっていることが分かった。
- 取り上げる教材やワークシートなどの工夫により、家庭でスマートフォンなどの使い方について話し合うきっかけを作ることができた。
- 問題となる行動をとってしまうシチュエーションを考える想像のトレーニングを行い、経験や感情を共有することで、生徒は「自分事」として問題と向き合うことができた。
- 情報モラル教育の日常化を目指すには、まずは「どのような力を身に付けさせたいのか」を検討し、学活・総合・道徳を中心に実施したほうがよい内容、教科を中心に実施したほうがよい内容、日常生活を中心に実施したほうがよい内容に分けながら実施していくことが必要であることが分かった。

2 課題

- 今年度は社会科で授業研究を実施したが、情報モラル教育を各教科の指導に位置付けていくことがさらに求められる。特に、各教科の様々な学習活動の中で、どの場面で、どのように情報モラルを取り上げるか具体化する必要がある。
- 地域として情報モラルに取り組んでいく中で、既存の組織（地区メディアコントロール推進委員会等）とどのように連携し、取組を広げていくかについて、検討していく必要がある。

【引用文献・参考文献・参考URL】

- ・ 一般財団法人 LINEみらい財団、「『楽しいコミュニケーション』を考えよう！『ネットトラブル回避編』」

<https://line-mirai.org/ja/activities/activities-moral>（参照2023-12-15）

※本授業で使用したカード教材の著作権等の知的財産権はLINE株式会社に帰属します。

授業で使用するため、教材申込を行い、LINEのHPら無料でダウンロードしました。